

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 藪野 愛

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、令和5年3月6日から3月16日にかけてオーストラリア薬学語学研修に参加しましたので、ご報告させていただきます。滞在期間中は、ホームステイをしながら、主に研修校にて勉強しました。

2. 学校生活

研修校は、New South Wales 州の Kingscliff にある職業訓練専門学校 TAFE でした。私達はそこで英語・薬学レッスンを受講しました。

英語レッスンでは、日常会話の他、オーストラリアの地理や歴史、文化などについての様々な知識を英語で学びました。その中で出てきた英単語や文法は、授業中に行ったゲームを通して身につきました。また、ホストファミリーと一緒にする宿題が出ることもあり、お互いの国や文化について学び合う良い機会となりました。

薬学レッスンでは、オーストラリアの薬事情を中心に学びました。薬剤師の資格を得られるまでの過程、薬局の配置や仕組み、医薬品の分類、患者の医薬品代を補助する PBS と呼ばれる制度がオーストラリアにはあることなど、日本との違いを意識しながら理解することができました。他にも、地域の薬局と連携しており、薬の注文や管理を行ってくれるアプリが普及していることを知りました。

授業の一環として、TAFE がある New South Wales 州の隣、Queensland 州にある Griffith University の薬学部を訪問しました。実験室や実験器具の見学だけでなく、実際に手を動かして、お菓子を包んだ一包化を体験させていただきました。

校外学習では、TAFE からバスで約 15 分の所にある Fingal Head へ行き、オーストラリアの先住民であるアボリジニの方々について学びました。漁獲に使っていた道具を実際に作ったり、毒の無い木の実を食べてみたり、自然に生えている木の樹皮や葉の利用法なども教わりました。アボリジニの伝統的な生活を見聞きし、体験することで、より学びを深めることができました。



研修校の TAFE



現地の薬局



Griffith University での薬学体験



NSW 州と QLD 州の州境



校外学習で試食した木の実

3. ホームステイ先での生活

私のホームステイ先は、New South Wales 州の Murwillumbah という町にありました。研修校の TAFE からは西に約 30 km 離れていたため、学校へは車で送り迎えしてくれていました。

私のホストファミリーは、6人家族でした。子供達が習い事やアルバイトをしていたこともあり、全員揃うことは少なかったのですが、家族みんなと仲良くなることができました。毎日色々な話をしたり、子供達と一緒に遊んだりして過ごした時間は本当に楽しかったです。また、お父さんとお母さんが毎日とても美味しい食事を作ってくれました。週末は、Queensland 州の Gold Coast に連れて行ってってくれました。子供達がお気に入りの場所だと言っていた Natural Bridge や動物園、ショッピングセンターなどに行きました。最終日には、手作りのチキンバーガーとお土産を持たせてくれました。家族の一員として私を受け入れてくれた温かいホストファミリーに、感謝の気持ちを込めて、私は手紙を書いて渡しました。



朝食



夕食



Natural Bridge



動物園 David Fleay Wildlife Park



ホストファミリーの子供達

4. 最後に

この研修を通して、何事にも積極性が重要であることを改めて実感しました。例えばコミュニケーションを取る上では、英会話に自信がなくても、身振り手振りを交えるなどして伝えようとする事です。その積極的な姿勢が大切だと思います。授業や校外学習では、手を挙げて意見や質問をするなどして積極的に参加しないと、多くの学びが得られないことを痛感しました。

また、以前から興味を持っていた国内外での薬事事情の違いを学ぶことができ、薬学部生としての知見を広げることができたと感じています。今回の研修をきっかけに、他国の医療についても詳しく学んでいきたいと思うようになりました。

このような貴重な経験をさせて頂いたことに感謝し、次のステップへと繋げていきたいと強く思います。ありがとうございました。